



本日の  
プログラム

## (移動例会) 職場訪問～自衛隊訪問～

10:15～(於)陸上自衛隊真駒内駐屯地

### 海外進出への決断とメガネについて

(株)ムラタ 代表取締役 内間木 義勝 氏

当社は1963年、厚別区に店舗を構え10月で60周年を迎えます。「時計・宝石・メガネのムラタ」として創業、1977年に新札幌のサンピアザにメガネのプリンス1号店をオープンし、先日の函館丸井今井店のオープンにより道内54店となり現在に至ります。出店当時は困難とされる地域にも積極的に出店し、その予想を覆す結果を出してきました。現在の沖縄や海外の出店も創業からの挑戦の精神に基づいたものになります。

道外初出店は2021年の「ゆいまーる」と呼ばれるお互いを助け合う精神が強い沖縄で、本土からの新規出店は難しいと言われていましたが、創業当時のメガネの洗浄、お客様に満足して頂く姿勢、メガネはファッションの一部であるということ、「パーソナルカラー診断」「AIを活用したファッション提案」を徹底して行うことで、沖縄でも「2号店を出店してほしい」「今までここまでやってくれる眼鏡店はなかった」など多くの声を頂くまでに成長しています。

海外ではアセアン地域で17店を展開し、今後も人口増加や発展が望めるこの地域で2026年までに50店の展開を目指しています。重要視していることは海外でも日本と同じで、洗浄活動、基本訓練、各種勉強会に力を入れています。メガネのメンテナンスという習慣がない地域でも、お客様のために快適なメガネで過ごしてほしい、またメガネのプリンスを利用するお客様、そこで働く従業員を通してその地域の発展に繋がってほしいという思いで営業を行っています。現在アセアン地域の従業員は120名にのぼり、海外では長く勤める人が少ないという状況でも5年以上の勤務になるスタッフも増え、プリンスの考え方、経営理念を理解し働いて頂いています。今年に入りベトナムのホーチミンで社会福祉活動として孤児院にメガネの寄贈活動を実施し、北海道新聞にも取り上げて頂きました。この活動も強制ではなく、活動の趣旨を伝えて賛同したスタッフが自ら参加するなど、地域社会への貢献をしたいという気持ちが現地スタッフの間でも高まっています。

日本のスタッフを3ヶ月単位で定期的に研修として現地に配置し、グローバル人材の育成を実施しています。現地には日本語が話せるスタッフもいますが、言葉が話せなくてもコミュニケーションをとる練習

をするなど国際感覚を身につけていきます。そのために現地スタッフはコミュニケーションスキルを上げることが必要になります。非言語のコミュニケーションは、①自ら実践して直接指導してみる、②表情・ジェスチャー・視線など言葉以外でも相手に伝える、③文化の違い、国民性の違いを理解してわかるまで何度も伝えることがポイントとなります。コミュニケーションの取り方に関して勉強を行ったスタッフは、帰国してからは日本での指導や日頃の営業活動に役立っています。海外では現地にあわせて変えていかなければならない部分、日本のやり方を徹底する部分をはっきりさせて現地の競合店との差別化を図っています。

年齢とともに老眼は進行していきますのでチェックしてみてください。何点か当てはまる項目がある方は視力検査をお勧めします。遠近両用レンズは遠くから近くまでを1本のメガネで見られるように、中近両用レンズは中間を見やすくする度数と近くが見える箇所が広がるよう設計されています。特に中近両用レンズは文字を読み書きする際の手元、テレビ画面の見え方などが快適になり、コロナ禍におけるリモート会議での使用により多くのお客様にご支持を頂きました。ゴルフ用レンズは特殊色素を練りこむことでゴルフ愛好家の新たな必需品として活躍します。サングラスだけではなく度付きレンズにも適用可能で、ゴルフで視力補正が必要な人々にとって大きな利点となり、くっきり視界でプレーに全集中できます。このように様々な機能のレンズを取り揃えた眼鏡を扱っています。本日はありがとうございました。



■本日のロータリーソング

なし

2023-2024年度 国際ロータリーのテーマ

「世界に希望を生み出そう」



国際ロータリー会長：ゴードンR.マッキナリー